

別表 2

安全教育計画 (38回生)

東京都立板橋看護専門学校

目的：人間の尊厳と生命の安全を守る看護者としての責任を果たすための基礎的能力を養う。

目標：1) 看護実践場面で起こりうる様々なリスクの可能性を認識できるようになる。

2) 看護実践場面において、自ら考え看護学生として責任ある行動がとれるようになる。

段階	目標	内 容	時期	方法	時間数
1年 基礎 I	1.看護学生としての実習態度・マナーが分かる。	1. 実習態度・マナー 2. 実習で知り得た情報の取り扱い 3. 感染予防 (自己の健康管理・手洗い)	実習前	講義	おりの 中で
1年 基礎 II-①	1.援助を通して対象の安全確保の為の配慮・工夫の実際が分かる。	1. 医療事故・医療過誤に関する基礎知識 2. 看護学生が日常生活援助場面で起こしやすい事故の事例検討(ペーパー・シミュレーション)	9月	講義 演習	おりの 中で
1年 基礎 II-②	2.実習中に起こりうるインシデント・アクシデントに関する知識を持ち、自分にも起こりうることとして捉えられる。	1. 基礎実習 II-①のインシデントレポート結果の提示と予防策の検討 2. 患者の状態把握に関する事例検討 (ロールプレイ) 3. 実習中のインシデント・アクシデント体験の共有化と予防策の検討	2月 実習中	講義 演習 カンファ レンス	おりの 中で 実習 時間
2年 成 I 老 I 実習	1.日常生活における安全な援助について、患者の要件をふまえて看護計画立案・実施・評価のプロセスの中で理解できる。 2.診療の補助に伴うリスクを予測し、予防策が考えられる。	<7月実習> 1. 老年期のリハビリ段階の患者の事例から安全な移動援助計画の立案、ロールプレイの実施、評価 2. 基礎実習 II-②のインシデント・アクシデントレポート結果の提示と予防策の検討 3. 実習中体験した様々な対象、様々な看護場面における安全についての事例検討 <11月実習> 1. 診療の補助技術 (与薬) インシデント・アクシデント事例の検討(ロールプレイ) 2. 7月実習のインシデントレポート結果の提示と予防対策の検討 3. 実習中体験した様々な対象、様々な看護場面における安全についての事例検討	6月 実習中 10月 実習中	演習 講義 カンファ レンス 演習 講義 カンファ レンス	(4 H おりの 中で 実習 時間 おりの 中で 実習 時間
3年 各看護学 実習	1.診療補助に関する安全な技術を身につける。 2.実習を振り返り看護における倫理について具体的に考えられる。	1. 診療補助技術における安全 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <講義>1.看護における安全 2.薬剤関連のエラーと危険性への認識 3.チューブ挿入中の事故防止 <学内実習> 1. 点滴・側管注 2. 輸液ポンプの実際 3. タイムプレッシャー下での点滴作成 4. チューブ挿入中の寝衣交換 等 5. 採血 (人体モデル) 6. 採血の実際 </div> 2. 各看護学 (2年次) 実習インシデントレポート結果の提示と予防対策の検討 3. 実習中体験した様々な対象、様々な看護場面における安全についての事例検討 4. 看護者としての患者の権利・尊厳を守ることに ついて実習場を振り返り、倫理という視点でまとめる (哲学・生命倫理の授業の中で、職業倫理という主題で取り上げる)	4月 4月 実習中 7月	基礎 看護学 方法論 VII 講義 カンファ レンス 講義	30H おりの 中で 4 H 実習 時間 講義

別表 3

臨地実習の実践的指導と教員・指導者の役割連携

実習期間(1クール)											教員と指導者の一日の具体的な行動の一例																																
1週目			2週目				3週目				時間	学生	学生	学生	学生	学生	学生																										
第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	第7日目	第8日目	第9日目	第10日目	第11日目		A	B	C	D	E	F																										
<p><行動計画の指導> (1) 実習開始前に行動計画を確認 (2) 不足があれば指導 (3) 修正の再確認</p> <p><現地リエゾン> (1) 病棟の構造、使用方法及び注意事項及び注意事項 (2) 受け持ち患者への紹介 (3) 病棟の医療チームメンバー紹介 (4) 実習受持ち承諾書確認</p> <p><事前学習確認・指導></p> <p><情報収集に関する指導></p> <p><学生カンファレンス></p>											<p><行動計画の指導> (1) 実習開始前に一日の行動計画を確認 (2) 不足があれば指導し修正後再確認</p> <p><申し送り参加></p> <p><指導者と一日の行動計画の調整></p> <p><学生の計画に沿って援助指導> (1) 実施前の計画確認 (2) 実践指導 (3) 実施前後の報告、記録確認 (4) 実施後の振り返り</p> <p><看護過程の指導> (1) 患者情報の収集 (2) 情報の分析 (3) 分析をもとにした看護問題の抽出 (4) 計画立案 (5) 実施</p> <p><医療チームの連携指導></p> <p><人間関係の指導></p> <p><態度面の指導></p> <p>患者に責任ある実習を行うには、リスクも伴う。事故を未然に防ぎ、患者の安全を確保すると共に、事故発生時の速やかな対応や、責任の所在等を考慮すると、実習指導は専任教員でなければならない</p> <p>学生実習終了</p>											<p>実習指導は学生5~6名に対して個別指導を行い、きめ細かな対応が必要</p> <p><現代看護学生の実習指導の現状> 1. 対人関係スキルの低下により患者とのコミュニケーション困難 2. 生活能力不足等による看護技術力低下 3. 精神的脆弱により打たれ弱く傷つき易い</p> <p>実習指導</p> <p><臨床現場の現状> 1. 在院日数短縮・医療高度化により受け持つ患者の重症度が高い(ハイリスク化) 2. 医療安全の強化により技術経験の減少 3. 多忙を極める実習環境</p> <p>臨地実習は授業である。学生が期待するレベルに到達しているかを見極めるには、適正な評価が必要。評価は教育の質を高めるだけでなく、学生の将来にも影響する</p>											<p>8:00 行動計画の助言 *</p> <p>8:30 申し送り・ミーティング</p> <p>9:00 指導者の助言後の行動計画の確認修正 *</p> <p>9:30 VSサイン測定指導 *</p> <p>10:00 清拭 搬送 点滴準備 車椅子移動 ムンテラ立会い 清拭</p> <p>10:30 看護過程指導</p> <p>11:00 午前中の記録報告確認助言 *</p> <p>11:30 食事介助 経管栄養 食事介助 食事介助 経管栄養 看護過程指導 看護過程指導 血糖測定</p> <p>12:00 休憩 休憩 休憩 休憩 休憩 休憩</p> <p>12:30 休憩 休憩 休憩 休憩 休憩 休憩</p> <p>13:00 VSサイン測定指導 *</p> <p>13:30 検査搬送 清拭 退院指導 ROM訓練 看護過程指導 入浴介助 点滴準備</p> <p>14:00 看護過程指導 看護過程指導 ケース会議 検査見学</p> <p>14:30 午後</p> <p>15:00 午後</p> <p>15:30 学生カンファレンス</p> <p>16:00 学生カンファレンス</p> <p>16:30 翌日の計画指導 *</p> <p>17:00 連絡調整 連絡調整 連絡調整 連絡調整 連絡調整 連絡調整 連絡調整 連絡調整 連絡調整 連絡調整</p>										

* 個別指導を行う
* 講義や会議のある時は指導者と調整

臨地実習における教員と指導者の役割
—共通の役割—
実習目標への到達

